

■目的 学校施設を計画的に整備し、費用の縮減等を図るとともに、建物及び設備の機能維持・回復をしながら、児童・生徒が安全安心に学ぶことができる教育環境を確保する。

■計画期間 2018年度～2057年度（40年間）

■対象施設 校舎・体育館・寄宿舎等

対象棟数 273棟 延べ床面積合計 46.2万㎡

施設種別築年数別面積構成

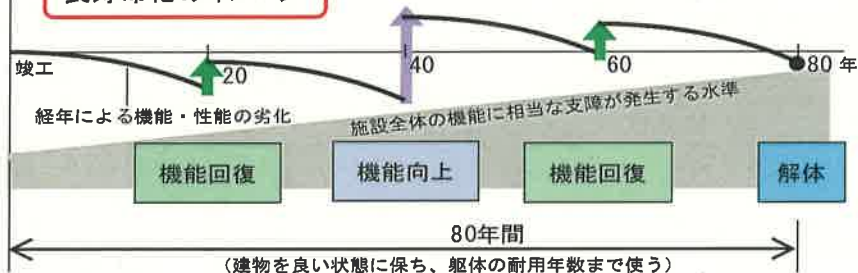
	築40年以上	築39～30年	築29～20年	築19～1年	合 計
高等学校	182,866 ㎡	58,731 ㎡	46,853 ㎡	112,272 ㎡	400,722 ㎡
特別支援学校	15,460 ㎡	16,834 ㎡	9,895 ㎡	14,149 ㎡	56,338 ㎡
総合寄宿舎	2,193 ㎡	- ㎡	- ㎡	2,961 ㎡	5,154 ㎡
合 計	200,519 ㎡	75,565 ㎡	56,748 ㎡	129,382 ㎡	462,214 ㎡
構成比	43.4 %	16.3 %	12.3 %	28.0 %	100.0 %

整備方針

○長く賢く使うために、原則「長寿命化改修」で整備
長寿命化改修・・・築80年までの使用を目標
（予防保全） 20年毎に機能回復と機能向上改修を実施

○構造躯体の強度や劣化状況・特殊要因によるもののみ「改築」を検討
改築・・・・・・100年以上の使用を目標
耐久性などこれまでより1ランク上の仕様で整備

長寿命化のイメージ



計画による効果

① 安全安心な教育環境の確保

【安全対策】安全対策設備の更新・避難所施設の機能強化など

【教育環境】内外装のリニューアル・トイレ快適化など



実習室のリニューアル



多目的トイレ

② 整備費用の縮減及び平準化（単純試算による）

【コスト縮減】従来の改築に比べ、2割のコスト減

【平準化】 建替えが集中する見込みの今後20年の費用を縮減・平準化

③ 社会的要請に応じた施設整備

【省エネルギー対策】校舎内木質化・太陽光発電設備など

【バリアフリー対策】 段差解消・トイレ洋式化など

【避難所機能の強化】安全性・ライフラインの確保など



地震時解錠装置付き
鍵ボックス



太陽光パネル付
LED照明灯